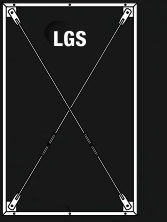


Theme

樹上生活の快樂へ LGSシステムで作る 合法的ツリーハウスの現実性

ニッポンの建築法規には適合しないことが悩みの種であったツリーハウス。
デイトナハウスがその糸口を遂に見つけ出しました。



LGS
×
PANELS
08
[1棟]

ツリーハウスを下から見上げる。まるで鳥の巣箱のような愛らしさ。LGSパネルを用い、2スパン×2スパンで構築した8畳の広さの立方体は、ツリーハウスとしては十分な広さと言えます。たとえば浴室やサウナ室としての箱や、シアターシステムを備えた箱などを設定すれば、森の中のリゾート施設として、より楽しいものになることでしょう。このサウナ室で“裸のサル”になる快樂は計り知れません。



本当は、建築のおせっかいな法律なんかなければ、このような住まいを求める人も多いのではないのでしょうか？ しかも土地に縛り付けられている印象からも全く無縁なのです。その意味では、未来の住宅地の姿を先取りしているのかもしれない。



従来のツリーハウスのほとんどが、木に何本も太いボルトを打ち込んで小屋の土台を固定するタイプのものでした。それは建築的にも樹木的にも少々痛々しいもの。一方でデイトナハウスの高床ツリーハウスは、あくまで木に寄り添うイメージ。しかも根っこを切ることもなく、地面を掘り返すこともないのです。相棒となる木の枝ぶりに合わせて、足の長さを決めるのですから、人間本位じゃない気持ちになるのです。

FLOOR PLAN



林の中を杭打ちの重機が走行できるように、木を避けてコースを設定する必要があります。配置計画はそれがポイント。それぞれの住居を渡り機橋で連結していくこともとても楽しい企画になります。樹上のコミュニティ。まるでサルの世界です。1週間以上樹上で暮らしてみると一体どんな気持ちになるのか？ かつてないほど心が落ち着くのか？ はたまたワイルドな興奮を覚えるのか？ 想像するだけでも楽しいですね。



INFORMATION LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田 敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

しかないのが現状です。そこで、今回はデイトナハウスが提案している高床式工法を使って、合法的なツリーハウスを考えてみました。地面に向かって鋼管杭を打ち込んで、その上にトラックのシャシのような鉄骨土台を構成し、さらにその上にLGSで平屋を建築する。この「スパイキー」と呼んでいる工法は今までも何度かご紹介してきましたが、斜面でも擁壁や過剰な基礎を作る必要のない高床式工法です。その発想を延長させて、林の木に寄り添うように長い杭を4本打ち込み、先述した鉄骨土台を回して、2スパン四方のLGSパネルの箱を構築します。シンプル立方体だからこそ、杭の長さによる高さの違いや開口部のカたちに変化を持たせることが、箱それぞれの個性として認識され、映画「もののけ姫」に出てくる、こだまのように楽しい印象を作ります。自然回帰だからと言って、すべて木質の素材ではなく、むしろ艶消し黒の鉄骨フレームを適度に露出させるところがデイトナハウスならではの仕様。鉄感と樹木のグリーンが呼応して洗練された安らぎを感じさせてくれることでしょう。

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk), Soma YOKOI

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かりやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

